

四 学区にある神社と寺院

(一) 祭りと神社

稲の取り入れのころは、秋祭りの季節でもありません。今年の農作物の豊作を祝い、町を守る神様に感謝するのが秋祭りです。

以前は、秋祭りには年に一度のおいしい魚料理が食べられたり、親せきの人が集まったり、こづかいがもらえたりする日として、みんなが楽しみにしていました。神社へ、役者を招待しての芝居や浪曲、万才、屋台、それに巫女の舞……と、当時の人々には実に楽しい日でした。今でも、子どもたちは各町の祭りに参列しています。

安来節大流行

大正九年（一九二〇）のことです。民謡の安来節を歌ったり、銭太鼓をつくっておどったりすることが、大流行しました。

この辺りでも、各部落のお祭りの時に安来節の大会が開かれました。一番上手な人は優勝旗がわたされるといふことで、大勢の人々が仕事もせずに練習ばかりしていました。

その年、安来節はこの辺りだけではなく、日本中に大流行していました。そこで政府は、「これでは国がほろびる。」と考え、ついに安来節禁止令を出しました。



秋葉山のお祭り（北野天満社にて）

そして御輿みこしをかついだり、獅子ししをかぶったりして町内をまわります。屋台はどの神社にもたくさん出て、子どもたちの楽しみになっています。

秋葉山あきばさん

北野町の北野天満社てんまんしゃでは、

毎年七月十七日に秋葉山のお祭りが行われ

ます。秋葉山というのは「火の神様」で、静岡しずおか

県の秋葉神社からおむかえした神様が、天満社

の拝殿はいでんの北西にまつられています。秋葉山は、

わたしたちをおそろしい火事かじから守るといわれ

ています。

秋葉山のお祭りには、静岡県のシンボルであ

る富士山ふじさんの形に竹を組み、ちようちんをたくさ

んかざります。夜七時ごろになると、ちようち

んに明かりがつき、富士山の形がきれいにうき

上がります。

四十年ほど前、秋葉山のお堂が焼けてしまったことがあります。その時、人々は「我々の身代わりになってくださった。」と、ますます信仰を強め、新しいお堂を建てました。

北野 天満 社

北野町郷裏、北野廃寺のすぐ西どなりにあります。福地からこの土地に移されたのは、今から四百年以上も前の江戸時代初期でした。京都の北野天満宮の菅原道真公をまつています。境内には、秋葉神社を始めとする四つの末社（小さな神社）があります。

大正時代の後半から昭和にかけて、神社の南側の道や境内を広くしました。そして、牛・こま犬などの石像や、とうろう・鳥居などを次々と村人たちの力でつくりました。

拝殿の外まわりには、昭和六十二年（一九八七）まで、十二支（ネズミ・牛・トラなど十二の生き物）のりっぱな彫刻がかざってありました。

お祭りは、以前は十月二十四日でしたが、昭和三十年ごろから十月十三日になり、そして、今では十月の第一日曜日になりました。



北野天満社（北野町）



扇さんのお祭り風景（昭和54年）
—豊田市畝部西町の戸軽武氏提供—

扇さん 橋目町の白山社や北野町の北野天満社では、昭和三十四年（一九五五）ごろまで、毎年田植えの後の七月に「御田扇さん」のお祭りが行われていました。「悪い虫が稲につかないで、今年もお米がたくさんとれますように」といのり

ながら、田の間をまわったのです。

豊田市の阿弥陀堂（今の畝部西町）から送

られてきた「扇が入った」みこしや花がさ、「田扇神社」と書かれた赤や白の百本ほどの旗などを、村じゅうの人が総出で持ってまわりました。そして、二つの村の人が一年交代で神社に泊まってみこしを守り、翌日となるの村へ送っていました。

田の虫がこの扇で吹き飛ばされるようにと

願って行われたこのお祭りも、殺虫剤の普及などもあって、今ではみこしをか
ついでまわることはしません、田植えの後、神社係が町を代表して阿弥陀堂
へ御神酒（神社に供えるお酒）を持って行き、その年の豊作をいのります。

白 山 社

学校の南、平針街道ぞいに橋目町の白山社があります。一五六〇
年ごろ、加賀の国（今の石川県）の武士、山田源内がここに座敷城
をつくり、その前に自分の国の氏神である白山宮をまつたのが始
まりです。現在まつてある神は、菊理比売命です。また境内には
太神宮を始めとする四つの末社があります。
お祭りは毎年十月十日に、橋目中町と橋目本町との合同で行われ
ています。昭和六十二年（一九八七）には、社務所が建てかえられ
ました。



白 山 社 (橋目町)

巫女みこの舞まい 小針町こばりの神明社しんめいしゃでは、昭和四十
年（一九六五）ごろまで、秋祭りまつの時に
行われていた巫女の舞が、平成五年へいせいの秋祭り
から三十年ぶりに復活ふっかつしました。この巫女
の舞では、小学校三、四、五年生の女子が巫
女の衣装いしょうをつけ、鈴すずや扇おうぎを手に持ち、太鼓たいこ
や笛ふえの音ねに合わせて舞まいます。

祭りの一か月ぐらい前から、三、四、五年
生の女子は公民館こうみんかんに集まりあつ、一、二時間ほ
ど舞いの練習れんしゅうをします。男子は神社で太鼓
や笛の練習をします。むかし、子どもものこ
ろに巫女の舞を舞ったことのある人たちが、

思い出しながら教えています。



巫女の舞（小針神社にて）



神明社 (小針町)

神明社

小針町の場、三菱社宅の東側に神明社があります。何年に建てられたのかははっきりしませんが、大日靈貴神（日の神で天照大神ともいう）と豊受毘賣神がまつられています。境内には、秋葉神社を始めとする十六もの末社があります。

この神社は、古くからこの土地を治めていた阿部氏が代々敬つていた神社です。神社の北側には、小針城の外堀跡が今でも残っています。お祭りは、毎年稲刈り前後の十月九日に行われます。

地蔵祭り 町内や子どもたちを救い守る地蔵菩薩の供養（死んでからの幸福をいのること）である地蔵祭りが、行なわれている地区が今もあります。地蔵堂は、北野町は東山、中屋敷、中南、大南に、橋目中町は公民館前に、小針町は

圓慶寺内えんきやうじないにあります。

祭りの時期じきや方法は地区によって異ことなります。幕まくやちようちんで周囲しゆういをかざり、お供え物そなをしてお参まいりをし、お賽銭さいせんを集めたり寺の住職じゆうしやくの話はなしを聞いたりします。そして、お参まいりした子どもたちやお賽銭さいせんをあげた人ひとに、お供え物を分ける地区があります。また、寺の住職じゆうしやくに地蔵供養ぢざうくやうと講話こうわをしてもらったあとに、警察署けいさつしょの方に防犯ぼうはんの話はなしをしていただいたり、オカリナ演奏やマジックショーなどを楽しむ時間じかんを作っている地区もあります。

町内の人々は、毎日交代こうたいでお仏供米ぶつぐまい（お供えそなのご飯はん）を供えたり、そうじや草取りくさとりをしたり、ぼうしやよだれかけをつくって供えたりして、みんなでお地蔵様ぢざうさまを守っています。



地蔵祭り（北野町西山）

(二) 寺院

報恩寺

北野町中屋敷、

北野廃寺の南西には、

浄土真宗本願寺派・

北谷山報恩

寺があります。その歴史はいろいろ言い伝えがあり、一説によると北野廃寺は

その昔、薬師寺という名前の寺院でしたが、平

安時代初めの大同二年（八〇七）、兵火によつ

て伽藍が焼失したということです。しかしその

後も天台宗の寺院として存在していたらしく、

鎌倉時代になって親鸞聖人の導きにより、浄土

真宗の道場になったとも伝えられています。古

くは、「北谷坊」とも呼ばれていました。

現在、報恩寺に伝わる最古の宝物は、享禄

四年（一五三一）六月の年号と本願寺第十世・



報恩寺（北野町）

證如上人（蓮如上人の孫）の署名が入った阿彌陀如来の絵像があります。この絵像は、江戸時代末期まで本堂に安置されていた本尊です。平成二十五年（二〇一三）、約二百年ぶりに修復を終え、美しい姿に戻りました。

幕末から明治時代初期にかけて、寺子屋も開かれていたようです。本堂の左手にはその時の第七世住職・釋智海法師の墓があり、墓碑には「筆子中」と刻まれています。これは智海法師に学んだ教え子たちが、協力し合って墓碑を建てたことを表しています。

現在の本堂は、明治四十三年（一九一〇）、十王町の西本願寺・三河別院の本堂を移築したものです。時の第九世住職・願成院釋清壽法師（結城清壽）主導のもと、旧長瀬村の人々総出により資材がここへ運ばれて建てなおされました。また釋清壽法師は、たいへん説教が上手な僧侶で、全国各地の寺へ出かけていました。本堂には、説教をするのに勉強したノート類が、たくさん保存さ

れています。

報恩寺では、毎年春と秋のお彼岸やお盆の法要のほか、報恩講と永代祠堂経法要が勤められます。

圓慶寺 小針町城跡、小針町公民館前（こばりしろあとこうみんかんまえ）にある浄

土真宗本願寺派のお寺が圓慶寺です。今から約

百三十年前、小針村の教会（せつきょう）（説教を聞くところ）

として建てられました。七十年ほど前からお寺となりました。

報恩講（ほうおんこう）や永代経（えいたいきょう）・追弔会（ついちようえ）（亡くなった人の苦勞（ろう）に感謝（かんしゃ）してお参り（まい）すること）や圓満会（えんまんかい）（集いの会）が勤まる時には、町内の人々が集まりお参りします。また、夏休みには、子供たちのた



圓慶寺（小針町）



寿松寺（北野町）

めに寺子屋（夏休みの宿題や自由研究支援等）が、また、子供たちを守る地藏法要では、子供達による読経や近隣大学生による音楽会等が開かれています。

今から五十年ぐらい前、境内には岡崎市によりすべり台や鉄ぼうなどの遊具が備えつけられ、近くの子どもたちの遊び場にもなっていて、とても親しまれています。

寿松寺 北野町郷裏、北野廃寺跡のとなり、北容山寿松寺（寿松庵とも呼ばれている）があります。この寺は、明治十一年（一八七八）鴨田の村に住む内田大志法尼が、村人たちと力を合わせて建てた浄土宗の尼寺が始まりです。現在の本堂は、昭和十年（一九三五）に建てたものです。また、現在の内田昌空住職は、四世住

職となります。

寿松寺では、毎年二月に御忌法要（法然上人の亡くなられた日の法事）や、三月に祠堂法要（亡くなった人の法事）が、第一土曜日に行われます。この時には、多くの信者が寺に集まってお参りするので、とてもにぎわいます。

境内には、スイセンやボタンなどの各季節の花がたくさん植えられています。また、句碑が建ててある庭もあります。このように普段はとても落ち着いた雰囲気のただよっている静かな寺です。